

## 挨拶

# 謝 辞

2021年度功労者表彰

被表彰者代表

足 立 和 泰\*



この度は、功労者表彰を頂き誠に光栄に思っております。これまで共に活動させて頂きました会員企業の皆様、JIPA事務局の方々には大変お世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

私は2015年度から5年間、常務理事、副理事長を務めさせて頂きました。著作権やソフトウェアの委員会活動、国際政策や第4次産業革命等のプロジェクト活動、業種別部会・フォーラム関西・地区協議会等の関西を基盤とする活動に携わらせて頂いたことは貴重な経験でした。

JIPAの活動に携わらせて頂いた中で、JIPAには広くて深い「場づくり」が多くあることを痛感しました。私の場合、研修や委員会活動は、各々の分野における専門的な知識や知見を体得する「学び合う場」となり、プロジェクト活動は、行政庁等への政策提言など「自分を鍛える場」となり、部会活動やシンポジウム等のイベントや理事会は、知財活動を高い視点から見つめなおす「気づきの場」となりました。そして、全ての活動が「人と人との交流の場」にもなりました。講義、講演、議論といったセッションの後に、お酒も交えながらざっくばらんに会話する機会を多く持てるのもJIPAの特徴で、そのような機会も楽しみにしていました。

さて、知財という職種は、各々が所属する企業組織の壁を越えてつながっている稀な職種であると思っています。事実、人事、経理、営業、技術、調達などの他の職種で他の企業の方々との交流が盛んな例を聞いたことは殆どありません。JIPAでの出会いがきっかけとなり、その後、継続してお付き合いをされている方も多いのではないのでしょうか。私の場合、JIPAの「場」でお会いして以降、折に触れて意見交換をしたり、プライベートの時間も一緒にさせて頂く等、様々なお付き合いが続いており、本当にありがたく感じています。

第4次産業革命の真ただ中、VUCA時代においては、業界や企業の壁を越えた共創が事業創造や産業発展のキーになると認識しています。そのような環境の中、企業組織を跨いだつながりを持っている知財部門には共創の起点になれるポテンシャルがあり、IPランドスケープに代表されるような知財部門としての新たな役割も相まって、活動の幅が広がっていくように思います。その観点では、JIPA活動は今後益々貴重な「場」になると思います。

最後になりますが、コロナ禍が収束し、通常の世界生活が取り戻され、JIPAの特徴である「様々な場」がF2Fで安全に実施できる状態に少しでも早く戻ることを願っております。そして、JIPA活動の発展および会員企業の皆様方のご多幸を祈念し、私のご挨拶とさせて頂きます。本当にありがとうございました。

\* パナソニック株式会社